

学 校 法 人 新 庄 学 園

新 庄 東 高 等 学 校

令和3年度

第3学年Tコース

教科目学習計画

～ 校 訓 ～

“自らの手で人生を開拓しよう”

それは努力によって

そして方法を考えて

すべて敬虔な態度で

教科	国語	科目	国語表現	学年	3T	単位数	3
使用教材	国語表現〈改訂版〉大修館書店						
授業内容	○文章を書く ○話す ○伝える ○表現を楽しむ						
到達目標	○感じたこと、考えたことを的確にまとめ、自らの言葉で表現する力を養う。 ○様々な表現を楽しみながら、言葉を正しく理解し表現する基礎能力を高め、言語生活の向上を図る。 ○伝達能力を高め、社会人としての資質を身につける。						
評価方法	確認テスト・到達度テスト(60%)平常点(課題提出・授業の取組状況)(40%) 関心・意欲・態度……………授業への取組・プリント記入状況 書く能力…確認テスト・到達度テスト・提出物の内容 知識・理解……………確認テスト・到達度テスト						
その他							
授業計画							
学期	月	学習内容・単元等				時間数	評価
1学期	4月	オリエンテーション				28	小テスト 単元テスト
	5月	1 本の紹介(課題別)					
	6月	2 自己PRと面接 敬語の使い方 硬筆 ポップ作成					
	7月	〈漢字〉 ・小テスト					
2学期	8月	3 書いて伝える				48	状 小テスト 単元テスト 年賀
	9月	4 声とコミュニケーション					
	10月	5 表現を楽しむ					
	11月	百人一首					
	12月	年賀状 〈漢字〉 ・小テスト					
3学期	1月	まとめ				8	提出物等
						84	

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項, ②副教材使用等	考查範囲	評価の観点のポイント		
						a	b	c
1 学期	本の紹介	4	<ul style="list-style-type: none"> 課題別学習（読み取り・場面の想像絵）に取り組み、それぞれの能力を高める。 発表を開きそれぞれの取り組みから学ぶ。 自己評価・相互評価を行い今後の表現活動に生かす。 		学習態度・学習態度・学習態度・単元テスト・提出物	○	○	○
	自己PRと面接 敬語 硬筆 ポップ作成 漢字	5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 自分の進路希望をより明確にするため、進みたい分野について調べ、達成するための方法をまとめる。 進路目標を達成できるよう、じぶんのPRポイントを整理し、相手に伝わるよう、書いたり話したりできるようにする。 面接で敬語を含め正しい言葉遣いで相手にわかりやすく話せるようにする。 正しい書き言葉で文字を整え、簡潔で分かりやすい文章を書けるようにする。 短い文章で相手に伝わるように表現し丁寧に書く。 			○	○	○
2 学期	書いて伝える 声とコミュニケーション 表現を楽しむ 百人一首 年賀状 漢字 小テスト	8 9 10 11 11 12	<ul style="list-style-type: none"> 自分の進路希望をより明確にするため、進みたい分野について調べ、達成するための方法をまとめる。 進路目標を達成できるよう、じぶんのPRポイントを整理し、相手に伝わるよう、書いたり話したりできるようにする。 面接で敬語を含め正しい言葉遣いで相手にわかりやすく話せるようにする。 百人一首を暗唱し、古人の表現を味わう。 ことわざ・慣用句を覚え、豊かな言語生活を送れるようにする。 日頃お世話になっている先生に年賀状を書き、感謝の気持ちを伝える。 		学習態度・単元テスト・提出物	○	○	○
3 学期	まとめ	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> 1年のまとめを行い、身についた力を確認し今後の表現活動に生かせるようにする。 		提出物	○	○	○

教科	国語	科目	現代文 B	学年	3T	単位数	2
使用教材	新編現代文 B (東京書籍)						
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文章表現活動を通して、論理的な文章を書く。 ・様々な評論や文学作品に触れ、登場人物の心情、筆者の考えを読み取る。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み、理解して自分の言葉で考えを表現できるようになる。 ・適切な日本語表現、豊かな語彙力を身につける。 						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・単元に沿って適切なテスト ・授業内での取組み ・課題への取組み 						
その他							
授業計画							
学期	月	学習内容・単元等				時間数	評価
1 学期	4 月	○オリエンテーション				1	上記に記載
	5 月	○随想				6	
	6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを理解したうえで自分の考えを表現する。 				6	
	7 月	○評論 <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章を読み、筆者の考えを理解する。 				6	
	○小説 <ul style="list-style-type: none"> ・小説に書かれた人物の心情を読み取る。 ○表現「読書感想文」 <ul style="list-style-type: none"> ・読書を通じて自分の視野を広げる。 ・語彙力を高め、説得力のある文章を書く。 				2		
2 学期	8 月	○小説				10	同上
	9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情を捉え、内容を深める。 				10	
	10 月	○評論				10	
	11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・長文を読み、基礎的な漢字力、語彙力を養う。 				11	
	12 月	○表現「小論文」 <ul style="list-style-type: none"> ・与えられたテーマに合わせて論理的な文章を書く。 ・小論文を書くうえで必要である適切な日本語表現を学ぶ。 				11	
3 学期	1 月	○評論				6	同上
	2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・演習問題にも取り組み、基礎的な読解力を身につける。 					
	3 月						
					58		

学習計画及び評価方法 等 ※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学 期	学習内容	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用 等	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント			
						a	b	c	D
1 学 期	[21] 課題テスト・オリエンテーション・本選考 (1)	4	国語の授業内で生徒に本を借りさせ、読書感想文を定期的に課題にすることで、生徒の読書離れを止める。	プリント	確認問題を随時	○			
	1 随想 (6)	5	現代のエッセイを読み、作者の感性に触れ、豊かな感受性を育てる。	P245～		○	○	○	○
	2 評論読解 (6)	6	文章を全文読ませる習慣をつける。語彙を増やし、内容を理解し読解できるようになる。	P190～			○		○
	漢字テスト (1)			P225～					○
	3 文学的文章読解 (7)	7	小説に書かれた人物の心情を読み取るとともに、適切な日本語表現ができることを目指す。			○	○	○	○
2 学 期	[31] 課題テスト・本選考 (3)	8	国語の授業内で生徒に本を借りさせ、読書感想文を定期的に課題にすることで、生徒の読書離れを止める。	プリント	確認問題を随時	○			○
	1 文学的文章読解 (10)	9	小説の世界を味わい、その主題と構想とを探る。感想を書くことで文章力の向上とともに、社会への関心を高める。	P290～		○	○	○	○
	2 小論文 (10)	10	進路活動を見据える。社会問題をテーマにきちんと構成をたてて文章を書く能力を身につける。				○	○	
	3 評論読解 (10)	11	文章を全文読ませる習慣をつける。語彙を増やし、内容を理解し読解できるようになる。模試対策。	P316～			○		○
	復習 (1)	12							
3 学 期	[6] 漢字テスト・本選考 (3)	1	国語の授業内で生徒に本を借りさせ、読書感想文を定期的に課題にすることで、生徒の読書離れを止める。スピーチを行える。冬休み中に漢字課題を出し、休み明けにテストを実施し、知識定着を確認する。	プリント	確認問題を随時	○			○
	評論要約 (3)		文字量が少なめの評論的随想文を教材にし、読解した後要約を行うことで文章のどの段落の部分に重点を置いて要約すればいいか理解する。				○	○	○

教科	地歴	科目	世界史 A	学年	3T	単位数	2	
使用教材	教科書：世界史 A（東京書籍）							
授業内容	<p>歴史的事象に関心を持ち、教科書・資料等から情報を読み取り活用する力を養う。</p> <p>教科書・資料等から得た知識を活用した言語活動重視の授業を行い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>							
到達目標	人類史を広く理解することで、「現代」の課題に各自意見を持つことができる。							
評価方法	<p>以下の観点で各学期評価する。</p> <p>平常点…授業での積極性 グループ活動への貢献度 特に予習の段階での内容理解度を重視する。 (分からない語句の事前調べなど)</p> <p>テスト…記述中心・口頭試問の場合も有り</p> <p>自己評価（ルーブリック評価）…単元ごとに振り返りを行う</p>							
その他								
授業計画								
学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価				
1 学 期	4月	第1部 近現代世界史の背景 序章 古代文明の誕生 ○文明誕生の必然性と合理性について理解する。 <div style="text-align: right;">テスト①</div>	3	テスト	50%			
	5月	第1章 ユーラシア諸地域世界 ○古代帝国を通してグローバリゼーションについて考える。 ○古代から中世までの各地域における宗教・文化・交流圏について理解する。 <div style="text-align: right;">テスト②（東アジア・西アジア）</div>	6	平常点	20%			
	6月	○古代から中世までの各地域における宗教・文化・交流圏について理解する。 <div style="text-align: right;">テスト③（南アジア・ヨーロッパ）</div>	2	自己評価	30%			
			<div style="text-align: right;">テスト④（東南アジア・交流圏）※</div>	2	※レポート提出			
	7月	第2部 成熟するアジアへとむかうヨーロッパ 第2章 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ ○世界の一体化とは何か考える。 ※	5	※夏期課題				
2 学 期	8月	第3章 大西洋世界の変容とその波及 ○産業革命期のヨーロッパの動乱と地球全体の変化を捉える。 <div style="text-align: right;">テスト⑤</div>	6	テスト	50%			
	9月	第4章 産業か社会の拡大と成熟 ○ナショナリズムについて考える。 <div style="text-align: right;">テスト⑥</div> <div style="text-align: right;">プレゼンテーション課題</div>	4	平常点	20%			
			<div style="text-align: right;">プレゼンテーション課題</div>	2	自己評価	30%		
	10月	第5章 アジア諸国の変貌と日本 ○激動のアジアと現代のつながりを考察する。テスト⑦ 第3部 現代の世界と日本	6					

	11月	第6章 帝国と民族の時代 ○東アジアの民族運動と日本史を関連づけて理解する。 ※	6	
		第7章 二つの世界大戦の時代 ※ ○世界大戦についての探究活動	7	※レポート提出 ※冬期課題
	12月	第8章 冷戦と民族独立の時代 ○現代社会と関連づけて理解する。 テスト⑧	5	
3 学 期	1月	第9章 グローバル化のなかの危機 ○グローバル化に伴う国際社会の課題と背景を考察する。テスト⑨	1	テスト・探究 50% 平常点 20% 自己評価 30%
			57	

時間別授業計画・評価方法 ※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学 期	実施計画	月	学習のねらい	備考:① 学習活 動の特 記事項, ②副教 材使用 等	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント			
						a	b	c	D
1 学 期	第1部 近現代世界史背景	4	古代文明誕生の必然性と合理性を理解する。		巻頭ペー ジと P5	○	○	○	○
	序章 古代文明の成立	5	古代帝国を通してグローバリゼーション について考える。 古代から中世までの各地域における宗 教・文化・交流圏について理解する。 東アジア・西アジア地域の歴史を理解する。		P6~11 P26~35	○	○	○	○
	第1章 ユーラシアの 諸地域世界					○	○	○	○
						○	○	○	○
	6	南アジア・ヨーロッパ地域の歴史を理解する。		P20~25 P36~45	○	○	○	○	
			東南アジア・交流圏の歴史について理解する。		P16~19 P48~50	○	○	○	○
	第2部 成熟するアジアと世界 へむかうヨーロッパ	7	世界の一体化について他地域から考察する。						
	第2章 アジア諸帝国 の繁栄とヨーロッパ								
2 学 期	第3章 大西洋世界の変容とその波及	8	産業革命期のヨーロッパの動乱と世界全体の変化を捉える。		P51~78	○	○	○	○
	第4章 産業か社会の 拡大と成熟	9	ナショナリズムの過熱の背景を理解する。		P101~11 8	○	○	○	○
	第5章 アジア諸国の 変貌と日本	1	当時のアジアの現状と現代のアジアの関連性を見だし、帝国主義時代を理解する。		P119~13 4	○	○	○	○
	第3部 現代の世界と 日本	1	東アジアの民族運動の背景を理解する。						
	第6章 帝国と民族の 時代	2							
3 学 期	第7章 二つ の世界大戦の 時代	1	探究活動			○	○		
	第8章 冷戦と民族独 立の時代	2	「現代社会」の授業と関連させて理解を深める。		P155~20 8				
		3	学習発表会 グループ、もしくは個人で1年間の報告を実施する			○	○	○	○

教科	地歴	科目	地理A	学年	3T	単位数	2
使用教材	教科書：高校生の地理A（帝国書院） 地理Aワークブック（プリントで配布）						
授業内容	・作業的、体験的な学習を通して地理的技能を身につける。						
到達目標	・日本の国土・都道府県や県庁所在地をしっかりとマスターする。 ・日本と世界の風土の違いを理解し、異文化理解を深める。						
評価方法	平常点…20点（授業への取り組みと姿勢・課題の提出） テスト…80点（各単元後の確認テスト・小テスト・レポート）						
その他	※通年で「日本の都道府県・県庁所在地」の確認テストをやっていく。						
授業計画							
学期	月	学習内容・単元等				時間数	評価
1学期	4月	オリエンテーション				1	上記同様
	5月	1, 日本の風土（都道府県・県庁所在地）				3	
	6月	2, 第1章 旅からとらえる現代世界				8	
	7月	第2章 世界の自然環境 ・地形 ・気候 ・文化				7	
					※小単元毎に復習プリント行い、大単元毎に確認テストを実施	19	
2学期	8月	3, 第3章 世界の生活・文化				30	上記同様
	9月	・中国					
	10月	・韓国					
	11月	・東南アジア					
	12月	・中央アジア					
					※上記の単元を学習後、アジア圏の国を自ら選択し、レポートを作成し発表する	30	
3学期	1月	4, 第2部 第1章 身近な地域の課題				5	上記同様
	2月	★ 山形県の市町村の特徴分析（探究学習）				4	
	※山形県の中から1つの市町村を選び、市町村をPRする。 （レポートを作成し、パワーポイントで発表）						
					9		
					58		

時間別授業計画・評価方法 ※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学 期	実施計画	月	学習のねらい	備考：① 学習活動 の特記事 項，②副 教材使用 等	考 査 範 囲	評価の観点の ポイント			
						a	b	c	D
1 学 期	オリエンテーション (47都道府県テスト) 知識定着に対する勉強方法の工夫 ・47都道府県を覚える(毎時10分間 テスト) 旅からとらえる現代世界 地形 ケッペンの気候区分 ・気候帯の判別 ・気候区の判別 ・雨温図とハイサーグラフの作成	4	・知識の定着において、学習方法を学ぶ。 ・「旅」を一つのテーマとして、そこから見えてくる、国々の文化や気候の違いなど、地図の情報や知識を捉えられるようにする。	プリント	プリント		○		○
		5							
		6	・地形の形成要因を理解し、多面的に地形を捉えられるようにする。 ・気候の判別ができるようになる。 温度・降水量のデータから雨温図やハイサーグラフを作図できるようになる。	教P4~20 プリント	対 策 プリント	○	○		○
		7						○	○
2 学 期	世界の生活・文化	8	東南アジアを中心に、自ら選んだ「国」を様々な角度から考察し、工夫してレポートを作成することができる。	教 P66~84	レポ-ト	○	○	○	○
		9							
		10							
		11							
		12							
3 学 期	山形県の市町村の特徴分析(探究学習) ※レポートを作成し、パワーポイントで発表	1	地元の文化・歴史・地形等総合的に探究し、地元を知る。また、発表を通じて表現力を身につける。	山形県公 式HP等		○	○	○	○
		2							
		3							

教科	数学	科目	数学 A	学年	3	単位数	4
使用教材	改訂版 高等学校 数学 A (数研出版) ポイントノート数学 A (数研出版)						
授業内容	<p>授業：確率、整数の性質、図形の性質について学習する。グループ学習を通して、数学 A について協働的に学ぶ。</p> <p>課題：授業の復習を中心に課題し、既習事項の定着を図る。</p>						
到達目標	身近にある具体的な事象を数学的に考察出来るようにする。						
評価方法	<p>以下の観点で各学期評価する。</p> <p>単元テストまたは単元レポート (80%)</p> <p>平常点【授業態度、課題、提出物、小テスト】(20%)</p> <p>関心・意欲・態度…授業態度、課題、提出物</p> <p>数学的な見方や考え方…単元テスト、レポート</p> <p>数学的な技能…単元テスト、レポート</p> <p>知識・理解…単元テスト、小テスト</p>						
その他							
授業計画							
学期	月	学習内容・単元等	時間数	評価			
1 学期	4 月	【1 章 場合の数と確率】 ・ 集合・集合の要素の個数・和の法則と積の法則	6	単元テスト 2 回			
	5 月	・ 順列・順列の利用・重複順列・円順列 ・ 組合せ・組合せの利用	6				
	6 月	→確認テスト①	1				
	7 月	・ 確率の意味・確率の計算・独立な試行の確率 →確認テスト②	12				
2 学期	8 月	【2 章 図形の性質】 ・ 三角形と角・三角形と比 ・ 三角形の重心・外心・内心	8	単元テスト 3 回			
	9 月	・ 角の二等分線と線分の比 →確認テスト③	7				
	10 月	・ 円周角の定理・円に内接する四角形 ・ 円と直線・接線と弦のつくる角	8				
	11 月	・ 方べきの定理・2 つの円 →確認テスト④	10				
	12 月	【3 章 整数の性質】 ・ 約数と倍数・最大公約数と最小公倍数	8				
		・ ユークリッドの互除法 ・ 方程式の整数解・分数と小数・2 進法 →確認テスト⑤	8				
3 学期	1 月	→レポート作成	8	まとめレポート 1 回			
			116				

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用等	考查範囲	評価の観点のポイント					
						a	B	C	d		
1	オリエンテーション(1) 数学A 場合の数と確率 場合の数(19)	4			到達度テスト						
				道順の数え方に興味を示し，樹形図，和の法則や対称性などによる場合の数の数え方に関心をもつ。			○	○		○	
				和の法則，積の法則の利用場面を理解し，事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。				○		○	
		5		既知である積の法則から順列の総数を求める式を導こうとする。			○			○	
				順列の総数，階乗を記号で表し，それを活用できる。			○		○	○	
				順列，円順列，重複順列の公式を理解し，利用することができる。					○	○	
				順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。			○			○	
				組合せの公式を理解し，利用することができる。				○		○	
				条件が付く組合せを，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。				○	○		
				同じものを含む順列の総数を求めることができる。				○		○	
	6		重複組合せについて理解し，その総数を求めることができる。			○	○		○		
			確率の定義から，その求め方がわかる。			○			○		
			積事象，和事象の定義を理解している。			○			○		
			確率の性質を理解し，和事象，余事象の確率の求め方がわかる。			○		○	○		
			複雑な独立試行の確率を，公式や確率の加法定理などを用いて求めることができる。				○	○	○		
			反復試行の確率を，公式を用いて求めることができる。			○			○		
		共通テスト(1)								○	
	2	数学A 図形の性質 平面図形(48)	8	線分の内分・外分，平行線と比などの基本事項を理解している。			到達度テスト	○			○
				三角形の外心，内心，重心の定義，性質を理解している。				○	○		○
チェバの定理・メネラウスの定理を理解している。								○	○		
9			チェバの定理，メネラウスの定理を，三角形に現れる線分比や図形の面積比を求める問題に活用できる。		○	○		○	○		
			円周角の定理と円周角の定理の逆を理解している。					○	○		
			円に内接する四角形の性質を利用して，角度を求めることができる。		○	○					
10			円の接線の性質を利用して，線分の長さを求めることができる。		○				○		
			方べきの定理を理解している。		○				○		

教科	理科	科目	地学基礎	学年	3T	単位数	3
使用教材	改訂 高等学校 地学基礎 準拠ノート 配布プリント						
授業内容	プリント及び教科書を用いた地学の基礎知識の定着						
到達目標	学んだ知識を生かし、地球上に起こっている問題を考えることができる。						
評価方法	課題に対する評価・取り組み レポートの評価・取り組み プレゼンの評価・取り組み						
その他							
授業計画							
学期	月	学習内容・単元等				時間数	評価
1 学期	4 月	第1章 宇宙における地球				30	の 課題・レポート・プレゼンへの 評価 取り組み
	5 月	宇宙の構成 太陽 太陽系の中の地球					
	6 月						
	7 月	第2章 活動する地球 地球の姿 火山活動と地震					
2 学期	8 月	第3章 移り変わる地球 地層や岩石と地質構造 地球環境と生物界の変遷 第4章 大気と海洋 地球の熱収支 大気と海洋の運動				40	1 学期と 同じ
	9 月						
	10 月						
	11 月						
	12 月						
3 学期	1 月	第5章 地球の環境				20	
	2 月	地球環境の科学 日本の自然環境					
	3 月						

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用等	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1	第1章宇宙における地球 第1節 宇宙の構成 1. 宇宙の始まり 2. 宇宙の広がりやと銀河の分布 第1章 宇宙における地球 第2節 太陽 1. 太陽の構造 2. 太陽の組成 第1章宇宙における地球 第3節太陽系の中の地球 1. 太陽系の構造 2. 太陽系の誕生 3. 地球型惑星① 4. 地球型惑星② 5. 木星型惑星 6. 惑星・衛星以外の天体 7. 生命の惑星・地球 第2章 活動する地球 第1節 地球の姿 1. 地球の形と大きさの測定 2. 地球の形と大きさ 3. 地球の内部構造 4. 地球の構成物質 5. プレーートの運動 6. プレーートの収束と造山運動 第2章 活動する地球 第2節 火山活動と地震 1. 火山の分布 2. 火山の地形 3. 火山の噴火と火成岩 4. 火成岩の種類 5. 地震が発生するしくみ 6. 地震の動き 7. 地震の発生する地域	4	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙の始まりを学習し，ビッグバンや宇宙の晴れ上がりについて理解する。 			○	○	○	○
		5	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙の広がりやと銀河の分布を学習し，宇宙の大規模構造について理解する。 太陽のエネルギー源や太陽の表面現象について学習し，太陽の構造について理解する。 			○	○	○	○
		6	<ul style="list-style-type: none"> 誕生から終末までの太陽の一生について学習し，進化の過程で炭素や酸素が生成されることを理解する。 太陽系の構造と誕生について学習し，太陽系がどのように形成されたのかを理解する。 			○	○	○	○
		6	<ul style="list-style-type: none"> 地球型惑星および月のそれぞれの特徴について学習する。 木星型惑星の特徴について学習する。 惑星・衛星以外の天体の特徴について学習する。 地球に生命が存在する条件について学習する。 地球の形や大きさについて，エラトステネスの測定方法やフランス学士院の測定方法を学習する。 			○	○	○	○
		6	<ul style="list-style-type: none"> 惑星・衛星以外の天体の特徴について学習する。 地球に生命が存在する条件について学習する。 地球の形や大きさについて，エラトステネスの測定方法やフランス学士院の測定方法を学習する。 			○	○	○	○
		6	<ul style="list-style-type: none"> 地球の形や大きさについて学習する。 地球の層構造を学習し，表面と内部の性質の違いを理解する。 地殻や核を構成する物質の違いについて学習し，理解する プレートとプレートの動き，トランスフォーム断層，プレートテクトニクスについて理解する。 造山帯の形成と付加体について学習する。 超大陸の変遷と大陸移動について学習する。 			○	○	○	○
		6	<ul style="list-style-type: none"> 世界および日本の火山の分布について学習する。 火山帯でのマグマの発生について学習する。 			○	○	○	○
		7	<ul style="list-style-type: none"> 火山の形と噴火の様式について学習する。 火成岩は，産状によって鉱物の形や組織が異なることを理解する。 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し，火成岩の分類について理解する。 地震のおこるしくみと震源断層の規模と位置について学習する。 地震波や震源の決定方法について学習する。 世界および日本の地震の分布について学習する。 日本付近で発生する地震の種類について学習する。 			○	○	○	○
		7	<ul style="list-style-type: none"> 火山の形と噴火の様式について学習する。 火成岩は，産状によって鉱物の形や組織が異なることを理解する。 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し，火成岩の分類について理解する。 地震のおこるしくみと震源断層の規模と位置について学習する。 地震波や震源の決定方法について学習する。 世界および日本の地震の分布について学習する。 日本付近で発生する地震の種類について学習する。 			○	○	○	○
		7	<ul style="list-style-type: none"> 火山の形と噴火の様式について学習する。 火成岩は，産状によって鉱物の形や組織が異なることを理解する。 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し，火成岩の分類について理解する。 地震のおこるしくみと震源断層の規模と位置について学習する。 地震波や震源の決定方法について学習する。 世界および日本の地震の分布について学習する。 日本付近で発生する地震の種類について学習する。 			○	○	○	○
		7	<ul style="list-style-type: none"> 火山の形と噴火の様式について学習する。 火成岩は，産状によって鉱物の形や組織が異なることを理解する。 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し，火成岩の分類について理解する。 地震のおこるしくみと震源断層の規模と位置について学習する。 地震波や震源の決定方法について学習する。 世界および日本の地震の分布について学習する。 日本付近で発生する地震の種類について学習する。 			○	○	○	○
		7	<ul style="list-style-type: none"> 火山の形と噴火の様式について学習する。 火成岩は，産状によって鉱物の形や組織が異なることを理解する。 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し，火成岩の分類について理解する。 地震のおこるしくみと震源断層の規模と位置について学習する。 地震波や震源の決定方法について学習する。 世界および日本の地震の分布について学習する。 日本付近で発生する地震の種類について学習する。 			○	○	○	○
		7	<ul style="list-style-type: none"> 火山の形と噴火の様式について学習する。 火成岩は，産状によって鉱物の形や組織が異なることを理解する。 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し，火成岩の分類について理解する。 地震のおこるしくみと震源断層の規模と位置について学習する。 地震波や震源の決定方法について学習する。 世界および日本の地震の分布について学習する。 日本付近で発生する地震の種類について学習する。 			○	○	○	○
		7	<ul style="list-style-type: none"> 火山の形と噴火の様式について学習する。 火成岩は，産状によって鉱物の形や組織が異なることを理解する。 火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し，火成岩の分類について理解する。 地震のおこるしくみと震源断層の規模と位置について学習する。 地震波や震源の決定方法について学習する。 世界および日本の地震の分布について学習する。 日本付近で発生する地震の種類について学習する。 			○	○	○	○

教科	保健体育	科目	体 育	学年	3 S	単位数	3
使用教材	体育用具						
授業内容	実技						
到達目標	各種の基本動作を習得し、基本体力の向上をはかる。また、安全と事故防止に注意し、互いに協力し合って練習・競技・ゲームができるようにする。自分の健康・体力に関心を持ち進んで運動する習慣を養い、生涯にわたって運動に親しむ基礎をつくる。						
評価方法	1. 授業に積極的に参加し各種目の特性に関心を持ち取り組んでいるか。 2. 自分の能力に応じた目標や課題を持ち行っているか。 3. グループ練習やゲームで仲間と共に課題を持ち練習しているか。 4. パスなどの基本的な動作をスムーズに行うことができるか。 5. 各種目の特性、ルールを理解しているか。						
その他							
授業計画							
学期	月	学習内容・単元等				時間数	評価
1 学期	4 月	・オリエンテーション、整列 ・柔軟、補強運動 ・スポーツテスト				3	実技テスト
	5 月	・柔道（受け身、固め技） ・陸上競技 短距離走 走り高跳び				8	
	6 月	（基礎練習、記録測定） ・選択種目（屋外） サッカー、ソフトテニス				8	
	7 月	ソフトボール、グラウンドゴルフ				6	
2 学期	8・9 月	・柔軟、補強運動 ・バレーボール 基礎練習（パス、サーブ、スパイク）				2	実技テスト
	10 月	ゲーム ・選択種目（屋外） サッカー、ソフトテニス				1 2	
	11 月	ソフトボール、グラウンドゴルフ ・バスケットボール 基礎練習（パス、ドリブル、シュート）、ゲーム				1 0	
	12 月	・選択種目（屋内） フットサル バスケットボール バドミントン 卓球				1 2	
3 学期	1 月	・選択種目（屋内） フットサル バスケットボール バドミントン 卓球				8	0
						8 4	

実施状況及び評価方法 等 ※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用 等	考查範囲	評価の観点のポイント				
						a	b	c	D	
第1学期	総授業時間 [30]									
	柔軟・補強運動 [3]	4								
	スポーツテスト [5]									
	1 記録用紙の記入 長座体前屈 立ち幅跳び (1)					○		○		
	2 反復横跳び 上体起こし (1)					○		○		
	3 握力・背筋力 (1)					○		○		
	4 シャトルラン (1)					○		○		
	5 ハンドボール投げ (1)	5				○		○		
	柔道 [8]									
	1 受け身 (4)			礼儀正しい態度で関心をもって学習に臨み、基本動作を習得し、安全に取り組めるようにする。			○	○	○	○
	2 固め技 (4)			固め技の定義を理解させ、上四方固め・横四方固め・縦四方固め・けさ固めを習得する。			○	○	○	○
	陸上競技 [8]									
	1 短距離走 (4)	6		30m・50m・70m・100mと距離を徐々に伸ばしていき、スタートダッシュ・腕振り・足の上げ方を分けて理解できるようにする。スタートブロックを使い自分に合った歩幅でクラウチングスタートを習得する。 距離毎に記録を測定し、目標設定記録に挑戦する。			○	○	○	○
	2 走り高跳び (3)			背面跳びの習得を目指し、空中姿勢・踏切・助走と分解練習を行う。 グループ毎にサーキット方式で練習を行い、お互いにフォームや踏切のタイミングを指摘し合いながら、より質の高い跳躍を目指す。 タブレットで跳躍の様子を撮影し、自らのフォームを客観的に見ることで、次回の改善に活かせるようにする。			○	○	○	○
記録会 (1)	7		80cm から 5cm ずつ上げていき、目標設定記録に挑戦する。			○	○	○	○	
選択種目 [6]			サッカー・ソフトテニス・ソフトボール・グランドゴルフ			○	○	○	○	
第2学期	総授業時間 [44]									
	柔軟・補強運動 [2]									
	1 10分間走 (2)	8		長期休業中に運動をしていなかった生徒も多いので、急な運動で怪我などをしないように、徐々に慣らしていく。			○		○	
	バレーボール [12]									
1 アンダーハンド オーバーハンドの基礎 (2)	9		ゲームで活かせるように、アンダーハンド・オーバーハンドの基礎を習得する。また、苦手生徒には経験者が教え、全員の目標達成を目指す。			○	○	○	○	

	2	スパイク サーブの基礎 (2)	10	3段攻撃がゲームで出来るように、サーブからの レシーブ→トス→スパイクの流れを全員が習得で きるようにする。				○	○	○	○
	3	チーム練習 ゲーム (7)		基礎練習で習得したことを活かし、ゲームを出来 るようにする。 ゲームで出た課題を次回の授業でチーム毎に練習 し、改善できるようにする。				○	○	○	○
	4	アンダーハンド オーバーハンドのテス ト (1)		単元のまとめとして基礎スキルの習得を確認す る。直上パスを何秒間出来るかを測定する。				○	○	○	○
		選択種目 [10]		サッカー・ソフトテニス・ソフトボール・グラン ドゴルフ				○	○	○	○
		バスケットボール [12]									
	1	ゴール下シュート レイアップシュートの 基礎練習 (2)	11	テスト項目でありゲームで一番の得点源である、 シュート練習を通し、ゲームで活かせる技術を身 につける。				○		○	
	2	チーム練習 ゲーム (9)		基礎練習で習得したことを活かし、ゲームを出来 るようにする。 ゲームで出た課題を次回の授業でチーム毎に練習 し、改善できるようにする。				○	○	○	○
	3	ゴール下・レイアッ プのテスト(1)	12	単元のまとめとして基礎スキルの習得を確認す る。20秒ゴール下シュートとレイアップシュート (左右)				○	○	○	○
		選択種目 [8]		サッカー・ソフトテニス・ソフトボール・グラン ドゴルフ				○	○	○	○
第 3 学 期		総授業時間 [10]									
		選択種目 [10]	1	フットサル・バスケットボール・バドミントン・ 卓球				○	○	○	○

教科	英語	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	学年	3T	単位数	2
使用教材	COMET English Communication II、COMET 英単語						
授業内容	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの基礎的能力を養う。						
到達目標	ALT と日常的な会話をし、英語体験を楽しめるレベルになること。 英検 3 級レベルの実力をつけること。						
評価方法	①週毎の週末課題小テスト(20%) ②月例テスト(60%) ③授業への取り組み(20%) ・授業態度、提出物の提出状況						
その他							
授業計画							
学期	月	学習内容・単元等			時間数	評価	
1 学期	4 月	Lesson1 Staying in Space			22	上記内容 月例テスト 2 回	
	5 月	(S+V+that 節/S+V+O+that 節)					
	6 月	Lesson2 Doraemon in the U.S.					
	7 月	(want など+人+to 不定詞) Lesson3 Farm in the Sky (疑問詞+to 不定詞)					
2 学期	8 月	Lesson4 Goal Setting			28	上記内容 月例テスト 3 回	
	9 月	(分詞構文)					
	10 月	Lesson5 The High School Student Restaurant					
	11 月	(形式主語 it)					
	12 月	Lesson6 Why Is it That Shape (関係代名詞 what) Lesson7 Fuji, a Dolphin With a New Fin (過去完了形)					
3 学期	1 月	まとめ			4	課題テスト	

時間別授業計画・評価方法 ※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用等	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1	Lesson 1	4	・宇宙での食事や体の変化に関する本文を読み，それぞれの変化の内容や理由について理解する。 ・S+V+that 節/S+V+O+that 節の表現について理解し，この表現を用い文を作成する。			○	○		
	Lesson 2	5	・国によって文化や慣習に違いがあることを理解する。			○	○		
	Lesson 3	6 7	・want など+人+to 不定詞、の表現について理解し，この表現を用い文を作成する。 ・シンガポールの垂直農場に関する本文を読み，その特徴や利点を理解する。 疑問詞+to 不定詞のの表現について理解し，この表現を用い文を作成する。 ・各 Lesson において Useful Expression を用い、ペアで会話をする。			○	○		
2	Lesson 4	9	・目標に向かって努力することの重要性や，効果的な目標の立て方について理解する。 ・分詞構文の基本的な意味や用法について理解したうえで，文を作成する。			○	○		
	Lesson 5	10	・本文の作者が働きながら何を感じ，学んだかについて理解する。 ・形式主語 (It) の用法について理解したうえで，文を作成する。			○	○		
	Lesson 6	11	・さまざまなものの形に関する本文を読み，その形となった理由について理解する。 ・関係代名詞(what)の意味や用法について理解したうえで，文を作成する。			○	○		
	Lesson 7	12	・イルカのフジの身にどのようなことが起こったかについて理解する。 ・過去完了形(had+過去分詞)の基本的な用法について理解したうえで，文を作成する 共通：各 Lesson において Useful Expression を用い、ペアで会話をする。			○	○		
3	まとめ		冬休み課題の理解度についてテストまたはレポートで確認する。			○			○

教科	英語	科目	英語表現	学年	3T	単位数	2
使用教材	NEW FAVORITE English Expression I、COMET 英単語						
授業内容	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの基礎的能力を養う。						
到達目標	ALT と日常的な会話をし、英語体験を楽しめるレベルになること。 英検 3 級レベルの実力をつけること。						
評価方法	①週毎の週末課題小テスト(20%) ②月例テスト(60%) ③授業への取り組み(20%) ・授業態度、提出物の提出状況						
その他							
授業計画							
学期	月	学習内容・単元等			時間数	評価	
1 学期	4 月	Lesson 1 Hello, Japan!			22	上記内容 月例テスト 2 回	
	5 月	S+V, S+V+C, S+V+O					
	6 月	Lesson 2 A Present for Sophie					
	7 月	S+V+O1+O2, S+V+O+C Lesson 10 What Is That Gesture? to 不定詞(名詞用法、形容詞用法、副詞用法)					
2 学期	8 月	Lesson 17 Tokyo Skytree			28	上記内容 月例テスト 3 回	
	9 月	比較① (同等比較、比較級、最上級)					
	10 月	Lesson 18 New Zealand					
	11 月	比較② (倍数表現、比較表現の言い換え)					
	12 月	Lesson 19 If I Were Principal 仮定法① (仮定法過去、仮定法過去完了) Lesson 20 Thank you Evryone! 仮定法② (as if , I wish)					
3 学期	1 月	まとめ			4	課題テスト	

時間別授業計画・評価方法 ※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用等	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1	Lesson 1	4	・自己紹介の基本である名前，年齢，学年，好きなことなどが表現できる。 ・S+V, S+V+C, S+V+O が使われている文が理解できる。				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	Lesson 2	5	・歓迎会における特有の言い回しなどが表現できる。				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
	Lesson 10	7	・S+V+O ₁ +O ₂ / S+V+O+C で使われる動詞はどのようなものか理解できる。 ・to 不定詞を正確に使って文を作ることができる。 ・ジェスチャーについてわかりやすく説明することができる。			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
2	Lesson 17	9	・比較表現を使って文を作ることができる。 ・各地の名所について他のものと比較しながら紹介する文を作ることができる。			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
	Lesson 18	10	・倍数表現を使って文を作ることができる。 ・「最も～だ」と言うときの比較表現を使って文の言い換えをすることができる。				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	Lesson 19	11	・仮定法の文を正確に作ることができる。 ・仮定法過去と仮定法過去完了の違いを正確に理解できる。			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	Lesson 20	12	・「まるで～のように」，「～ならいい[よかった]のに」と言うときの表現を正確に使うことができる。 ・as if～ と I wish～の表現の使い方と，それらを使うべき場面について理解できる。				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	まとめ		冬休み課題の理解度についてテストまたはレポートで確認する。			<input type="radio"/>			<input type="radio"/>

教科	家庭	科目	家庭総合	学年	3T	単位数	2
使用教材	家庭総合教科書 他プリント類						
授業内容	教室での座学や実験実習を通して知識に偏らず、生活技術の習得を目指す。						
到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活等に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。						
評価方法	評価基準全体（単元テスト・課題制作・実験実習・プリント提出） 1) 関心・意欲・態度 2) 思考・判断・表現 3) 技能 4) 知識・理解						
その他							
授業計画							
学期	月	学習内容・単元等				時間数	評価
1 学期	4 月	食生活と自立				24	単元テスト・レポート提出
	5 月	献立作成・調理実習					
	6 月	環境に配慮した食生活					
	7 月	学んだことを活かそう (ホームプロジェクト)					
2 学期	8 月	住生活と自立				24	単元テスト
	9 月	安全と快適					
	10 月	住居における持続可能性					
	11 月	保育					
	12 月	子どもの成長 子どもを取り巻く環境 学んだことを活かそう (ホームプロジェクト)					
3 学期	1 月	消費生活				4	出レポート提
	2 月	持続可能な社会を生きる					
	3 月						
						55	

時間別授業計画・評価方法 ※評価の観点：a(関心・意欲・態度)，b(見方・考え方)，c(表現・処理)，d(知識・理解)

学期	実施状況	月	学習のねらい	備考：①学習活動の特記事項，②副教材使用等	考查範囲	評価の観点のポイント			
						a	b	c	d
1	食事の持つ機能 栄養素のはたらき 食品の選択と保存 (10)	4 5	日常用いられる食品の栄養的特質、調理上の性質について科学的視点から理解する 食生活の多様化や環境の変化を知り、食生活と環境の関わりについて科学的に考える能力を身につける	①学習プリント ②献立作成ソフト	学習プリント	○	○	○	○
	献立を立てよう 食の安全と調理 現代の食生活の課題 (14)	6 7	世代ごとの必要な栄養素を考え、献立をたてること 現代の食生活における食の安全に関する基礎的な知識を身につける 調理の基本的な技術を身につけ、健康、安全を考えた調理ができるようになる			○	○	○	○
2	食文化の継承 食料自給率と食育(8)	7 8 9	食生活と環境の関わりについて科学的に考える 環境を考えた食生活を送ることができる	①学習プリント	学習プリント	○	○	○	○
	住まいの役割 快適・安全に暮らす 住まいの維持と管理(10)	9	住宅の機能、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解する 安全で快適な住生活を送るための知識を身につける			○	○	○	○
	子どもの発達と成長 コミュニケーションの発達 親の役割 生活習慣とは 子どもの健康と安全 子どもの遊び 子育ての現状と問題点 (14)	1 0 1 1	子どもの心身特徴や発達、遊びの意義を捉え、子どもにとってよい環境について考える 生命の尊さを認識し、愛着の形成や社会的規範を身につけさせる上で、保育における親の役割を理解する 子育てを支える社会の仕組みについて知り、これから子供を育てる世代になることを実感する	①学習プリント	○	○	○	○	
	私たちの消費生活 消費者問題の現状と課題 家計を計画的に管理しよう(10)	1 1 1 2	消費行動への意思決定要因を理解する 家計管理について具体的な事例を通してシミュレーションすることができる 税金の仕組みを知り、納税の大切さを知る	①学習プリント	○	○	○	○	
3	持続可能な社会のために (4)	1	地球環境の貢献できるライフスタイルを確立する	①学習プリント	学習プリント	○	○	○	○